

京都橋大工学部教授 大場 みち子さん(68) 教育工学

文章の上手な人はどうやって構成を組み立てているのか。自身が開発に携わったアプリを用いて、問題と解答の間に存在する「過程」の解明に取り組んでいる。

論文をまとめる際に、背景や課題、アプローチ手法、結果、まとめ、といった流れをどう書き込んでいくかを記録するアプリを開発。使用した学生のデータを分析したところ、論文の作成過程で、何度も文章を往復し、複数箇所を修正を加えている人の方が、修正しない人よりも読み

### 問題と解答の間の「過程」に光



やすくなっていることがわかった。また、学生の論文の成績とプログラミングの成績を比較してみたところ、好成績の人は共通しており、「論理的に

## 探究人

### 上達のヒント解析、教育に還元

文章を書くことは、プログラミング能力の向上にも深く関わっている」と指摘する。茨城県土浦市出身。得意な数学を生かせることから進学した日本女子大家政学部では

生産工程に関わるシステム開発などを手がけ、会社員として充実した生活を送っていた。大学教員という選択につながったのは「会社の研究で博

教員としては納得のいくオフアワーがなく、会社に残留を選択をした。研究分野や会社員としての手腕を買われ、10年に公立はこだて未来大教授に就任し、

企業や行政と協力して課題解決のシステムを開発するコースの責任者として大学と企業の橋渡しに尽力した。定年退職を機に、知り合いの研究者がいたことから23年、京都橋大に着任した。来月に新設されるデジタルメディア学部の学部長に就任する。文章で試した「過程」の研究を「アニメーションなど作品制作でも試してみたい」と意気込む。データを収集し、上達のヒントを教育で還元していく考えた。「未来は自分の中にある」との motto から「好きを実現できるよう学生の背中を押ししたい」とほほ笑む。(湯沢宏志)

物理学を専攻した。学生時代は研究者を目指すつもりはなかったという。就職先の日立製作所で配属されたシステム開発研究所で初めてITの世界に飛び込み、ソフトウェアの設計、開発部門で研究者としての生活をスタートさせた。製造業の

十号を取らせるといふ日立の文化にあった」と振り返る。同社では以前から研究を通して博士号を取得し、大学で教鞭をとる社員が多く、大場さんも上司から声がかかり、2001年に大阪大工学研究科で博士号を取得した。ただ、研究業績が少ないとの理由で

企業や行政と協力して課題解決のシステムを開発するコースの責任者として大学と企業の橋渡しに尽力した。定年退職を機に、知り合いの研究者がいたことから23年、京都橋大に着任した。来月に新設されるデジタルメディア学部の学部長に就任する。文章で試した「過程」の研究を「アニメーションなど作品制作でも試してみたい」と意気込む。データを収集し、上達のヒントを教育で還元していく考えた。「未来は自分の中にある」との motto から「好きを実現できるよう学生の背中を押ししたい」とほほ笑む。(湯沢宏志)